

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	国語	科目	国語表現	単位	3 単位
使用教材	国語表現 (大修館書店)				
学習目標	① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ② 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く。 ③ 基礎事項の繰り返し学習を重視し、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
単元と内容					
1 学 期	{言葉と出会う} ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつながり方 {自己PRと面接} ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考えよう ・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く・面接にチャレンジ	・表記の決まりを意識し、正しく書く。			
		・漢字や慣用表現を正しく使う。			
		・話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解する。			
		・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。			
		・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・就きたい職業に就くために必要なことを、適切な方法で調べる。 ・志望先に提出する書類に求められていることを適切に理解する。			
2 学 期	{メディアを駆使する} ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう ・メディアと情報 {会話・議論・発表} ・相手や場面に応じた会話 ・スピーチをしよう {小論文・レポート入門} ・小論文とは何か ・文章を読み取って書く ・発想を広げて書く ・レポートを書く	・さまざまな通信文の形式を理解する。			
		・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。			
		・電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。			
		・情報が編集されていることを理解する。			
		・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・発想を広げるための方法を理解する。			
3 学 期	{表現を楽しむ} ・日常生活の正しい過ごし方 ・「わが町自慢」のパンフレット作り ・エッセイを書こう	・読者を意識して、物事の手順をわかりやすく書いて伝える。			
		・接続表現や順序を表す言葉などを効果的に用いる。			
		・読者を意識し、ほかのエッセイを参考にしながら、構成、文体、表現			
		などを意識してエッセイを書く。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	・表記の決まりを意識し、正しく書く。・漢字や慣用表現を正しく使う。・説得力のある主張をするために、必要な情報を集めたり、構成や説明資料を工夫したりする。			
II	思考・判断・表現	・文脈による文のつながりを理解する。・取り上げる内容は話し方を工夫して、わかりやすくする。相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。			
III	主体的に学習に取り組む態度	・正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしている。・練習問題を解くことをとおして、文を整えて書く学習に対して積極的に取り組もうとしている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・観察 ・ワークシート ・評価テスト		・観察 ・ワークシート ・評価テスト		予定
			・観察 ・作品 ・ワークシート ・評価テスト		105 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	地歴・公民	科目	歴史総合	単位	3 単位
使用教材	第一学習社「高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来」 帝国書院「明解 歴史総合図説シンフォニア」				
学習目標	① 近現代の諸事象について、世界と日本の過去と現在を考察・理解し、諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ② 事象の意味や意義、特色などについて、歴史的な視点に着目し、概念などを活用して考察、構想、説明・議論する力を養う。 ③ 諸課題に主体的に追及、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察・理解から国民としての自覚や他国尊重の大切さを自覚する。				
単元と内容					
1 学期	第1部 歴史の扉 1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料	私たちの生活や身近な地域の諸事象を基に、日本や周辺地域			
		及び世界の歴史とつながっていることを理解する。近代化、国際			
		秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化から歴史			
		のつながりを考察し、表現する。歴史を叙述する基である遺物、			
		文書、図像などの資料の必要性を理解し、考察し、表現する。			
2 学期	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、			
		問いを表現する。			
		18世紀の日本やアジア諸国と欧米諸国との関係を理解し、経済			
		と社会、工業化と世界市場の形成を考察する。			
		立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国			
3 学期	第2部 第3章 グローバル化と私たち	の変容、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解する。			
		国際秩序の変化や大衆社会の形成に関して問いを表現する。			
		第一次世界大戦と大衆社会、経済危機と第二次大戦、国際秩序			
		の変化や大衆化の歴史を理解する。			
		国際政治、世界経済と日本社会、現代的な諸課題を理解する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解して、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。			
II	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとして、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどへの取り組み状況		1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどへの取り組み状況 3 発表活動		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	2 単位
使用教材	教科書: 高校数学Ⅱ(実教出版) 副教材: ステップノート数学Ⅱ(実教出版)				
学習目標	①いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学期	ウォームアップ 3章 いろいろな関数 (期末テスト)	(学びの基礎診断)	基礎力診断テスト		
			計算練習		
			指数関数		
			対数関数		
2 学期	4章 微分と積分 (中間テスト) (期末テスト)	(課題テスト)	小中高の復習		
			微分の考え		
			積分の考え		
3 学期	課題学習 自主トレーニング (学年末テスト)				
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
Ⅱ	思考・判断・表現	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		予定
					70時間
					実施
育てる能力	忍耐力 主体性 他者理解 協調性 誠実 生きる力 知識技能 社会貢献				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択必修
教科	理科	科目	生物基礎	単位	2 単位
使用教材	教科書：高等学校 新生物基礎(第一学習社) 副教材：新課程版 プログレス生物基礎 (第一学習社)				
学習目標	① 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うための基本技術・知識を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて生物現象を探究する力を養う。 ③ 生物や生物現象への興味・関心を高め、科学的に探究する態度や進んで学習に取り組む姿勢を育む。				
単元と内容					
1 学 期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 第2節 遺伝情報とタンパク質	・様々な生物の特徴を比較して、多種多様な生物の中に共通性を見出す			
		とともに、その特徴を進化と関連づけながら学習する。			
		・生命活動におけるエネルギーの必要性と代謝のしくみを学習する。			
		・DNAの構造的特徴や遺伝におけるはたらきを理解する。			
		・遺伝情報をもとにタンパク質が合成されるしくみを理解する。			
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 恒常性と神経系・内分泌系 体内環境の維持のしくみ 第2節 免疫 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 バイオーム	・体液の種類とはたらきを理解し、体内における情報伝達の概要と			
		恒常性の基本的なしくみを理解する。			
		・免疫を担う細胞や器官の種類とはたらきを学習し、免疫のしくみを理解			
		するとともに、医療とのかかわりについても学ぶ。			
		・植生・バイオーム・生態系の多様性について身近な植生と関連付けながら学習する。			
3 学 期	第2節 生態系とその保全 生態系と生物の多様性	・生態系の成り立ちと生物どうしの生態系における関わりを理解する。			
		・人間活動による生態系への影響とその対策について理解を深める。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	生物や生物現象について基礎的な知識を身に付ける。 理科の見方・考え方を習得し、見通しをもった観察や実験方法を身に付ける。			
II	思考・判断・表現	生物や生物現象を探究する過程を通して、事象を科学的に考察している。また、導き出した考え方を的確に文章や図によって表現したり、相手に伝えたりすることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象について意欲的に理解しようとし、科学的な見方や考え方ができる。 探究活動に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	○定期テスト(年4回) ○小テスト ○授業プリント ○問題演習 ○実験操作 ○レポート		○定期テスト(年4回) ○問題演習 ○レポート ○発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	保健体育	科目	体育	単位	2 単位
使用教材	現代高等保健体育(大修館書店)				
学習目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ② 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	体育理論 体づくり運動 選択Ⅰ(武道・ダンス)	・スポーツの歴史や意義、価値、影響について学ぶ。 ・体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動と自分の体力を高める運動を行う。 ・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
2 学期	選択Ⅱ(バレーボール・バスケットボール) 選択Ⅲ(バドミントン・卓球)	・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。 ・集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
3 学期	スキー	・スキーターン等の技能を修得し、斜面や雪の状態に適応できる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能を身に付け、ルールなどが理解できる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、他者に伝えている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康・安全を確保している。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	テスト(実技・ペーパー)		提出物		予定
	授業時の観察		授業時の発言		70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能			

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	3 年	学科	全学科	必選	共通科目	
教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位	2 単位	
使用教材	COMET English Communication Ⅱ （数研出版）					
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。					
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。					
	③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
単元と内容						
1 学期	基礎力診断テスト	単 語 帳 も 授 業 内 で 活 用	環境のためにできることを英語で述べる			
	Lesson7 You Can Make a Difference		[過去完了形]			
	Lesson8 Nudge		小さな工夫で人を動かす [関係代名詞what]			
	1学期末テスト					
2 学期	夏期課題テスト					
	Lesson9 The Father of Braille Blocks		だれもが暮らしやすい社会について英語で述べる			
	2学期中間テスト		[関係副詞]			
	Lesson11 The Vancouver Asahi		人権の問題について英語で述べる [知覚動詞]			
	2学期末テスト					
3 学期	Lesson12 From Small Companies to the World		日本で開発・改良された優れた製品を英語で紹介する			
	学年末テスト		[仮定法]			
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。				
Ⅱ	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。				
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
						予定
	授業プリント(単語・発表原稿) 定期テスト 実技テスト(音読・暗唱・発表)		定期テスト 実技テスト(発表など)		授業の取り組み (プリント・授業態度) 自己評価シート	70 時間
						実施
置賜農業 育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	農業	科目	課題研究	単位	4 単位
使用教材	各分野の教科書				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につける。 ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
1 学期	テーマ設定・年間計画立案 調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・校内プロジェクト発表会	グループで興味・関心、進路希望に応じて、農業に関する研究テーマを設定する。			
		課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。			
		作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。			
		発表会に向けてグループで協力して準備を進める。			
2 学期	調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・県プロジェクト発表会 研究集録作成	課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。			
		作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。			
		発表会に向けてグループで協力して準備を進める。			
		次年度に向けての課題を整理する。			
3 学期	研究集録作成 校内発表会	次年度の校内発表会に向けてこれまでの活動やデータを整理する。			
		後輩へ研究の引き継ぎを意識して研究をまとめる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、化学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や態度が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力		・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力 ・提出物		予定
					140 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	生物生産科	必選	選択
教科	農業	科目	作物	単位	2 単位
使用教材	作物(実教出版)				
学習目標	① 作物の生産と経営について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 作物の生産と経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	作物生産の役割と動向 イネ	作物とは、作物栽培の動向			
		作物の種類と特徴、作物の生育と生理、栽培環境と生育の調整			
		栽培的特性、栽培管理			
2 学期	作物の特性と栽培技術 麦類・トウモロコシ・豆類・いも類 イネ	作物の種類と特徴、作物の生育と生理、栽培環境と生育の調整			
		栽培的特性、栽培管理、生育の特性			
		栽培的特性、栽培管理			
3 学期	作物の流通と経営の改善 イネ	流通とその改善			
		経営とその改善			
		栽培的特性、栽培管理			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査、小テスト		学習状況の観察(発表等のパフォーマンスの評価)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	生物生産科	必選	選択
教科	農業	科目	野菜	単位	2 単位
使用教材	野菜(実教出版)				
学習目標	温室(土耕・水耕)と野菜圃場を学習の場として、一貫した野菜栽培の実践と経営技術について学ぶ。また、立地条件に適合した野菜栽培に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、積極的に新たな技術を創造する能力と態度を育てる。				
単元と内容					
1 学期	野菜の育苗 ◎育苗管理(果菜類) 野菜の生育特性と栽培技術 ◎春・夏野菜の栽培管理 ◎収穫・調整・販売の実習 (露地栽培・施設栽培)		○苗管理が適切に、意欲的にできたか。		
			○野菜栽培と育苗の重要性について理解できたか。		
			○野菜生産と育苗、野菜の品質について説明できるか。		
			○野菜生産と育苗の基本的な知識が身についたか。		
2 学期	野菜の栽培と環境管理 ◎葉菜類の管理 ◎果菜類の収穫 ◎秋野菜の栽培、ほ場整備 ◎秋野菜の栽培管理 ◎収穫物の調整と販売 ◎施設栽培の管理と収穫		○圃場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
			○栽培の基本的な知識・技術が理解できたか。		
			○収穫・調整の仕方、販売方法など説明できるか。		
			○栽培の基本的な知識・技術が理解できたか。		
3 学期	これからの野菜経営 ◎野菜生産の経営的特徴 ◎施設管理・整備		○基本的な知識・技術を理解できたか。		
			○温室・圃場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	野菜の経営について、体系的に理解する。 生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努める。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことで深めている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上へ取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認(ノート) 定期考査 口頭試問による確認(実技試験)		行動の記録 (改善点を見出す意見を評価)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	生物生産科	必修	選択
教科	農業	科目	果樹	単位	2 単位
使用教材	教科書:果樹(実教出版株式会社)				
学習目標	① 果樹の生産と経営について体系的・系統的に理解し、現場で活用できる技術を身に付ける。 ② 果樹の特性や栽培に適した環境を理解させ、本県における果実の生産と経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 果実の品質と生産性向上を図る能力と態度を育成し、主体的に経営に向かう姿勢と他者と協働して研究に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (春～夏の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ・施設の利用のあり方		置賜地域の中心品目であるリンゴ、ナシ、オウトウ、ブドウ、カキの生育及び栽培管理について理解する。		
			春から夏にかけての栽培管理と技術の定着を図る。		
2 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (夏～冬の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ・品種の選定と開園方法		気温・日照・降水量・風・土壌・水分・栄養等の環境条件が、果樹の生育にどのように影響するのかを調査し、本地域における栽培管理を理解する。		
			夏から冬にかけての栽培管理と技術の定着を図る。		
3 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (冬期間の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ○1年間のまとめ		果実の生産性と着果習性について理解する。		
			整枝・剪定技術を習得する。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	果樹の生理・生態的な特性や生産及び生育環境を理解し、知識と技術を習得している。			
II	思考・判断・表現	果樹での学習成果を、主体的に分析、考察、評価してまとめることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	果実の生産と経営に関する課題を発見し、日頃の学習と関連付けながら主体的に学ぶことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実習記録シート 観察(授業態度・服装)		定期テスト 実習記録シート プロジェクト活動の発表と報告書 観察(授業態度・服装)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	生物生産科	必選	選択
教科	農業	科目	畜産	単位	2 単位
使用教材	実教出版「畜産」				
学習目標	①家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第4章 家畜の飼育 3酪農 【実習】牛の飼養管理	・乳牛の特性			
		・乳牛の品種、選び方			
		・乳牛の繁殖			
		・酪農経営			
2 学期	第4章 家畜の飼育 4肉牛の飼育 牛の疾病、衛生管理 【実習】牛の飼養管理、自給飼料の製造	・肉牛の特性			
		・肉牛の品種、選び方			
		・肉牛の繁殖、育成			
		・繁殖経営、肥育経営、一貫経営			
3 学期	第5章 畜産と経営 畜産経営の基礎、畜産経営の改善 【実習】牛の飼養管理	・畜産経営の収益構造			
		・価格の変動			
		・市場(子牛、枝肉)			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	家畜の生産や日本の畜産業の概要について理解している。			
II	思考・判断・表現	安全な畜産物の生産における課題を発見し、合理的かつ創造的な解決に向けて思考し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	安全な畜産物の生産、品質の向上に向けて主体的にかつ協働的に取り組んでいる。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト ワークシート		ワークシート 発表 実習		発表 実習
					発表 実習
					発表 実習
					発表 実習
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	生物生産科	必修	選択
教科	農業	科目	食品製造	単位	3単位
使用教材	食品製造(実教出版)				
学習目標	① 食品を加工することの意義と楽しさを知る。 ② 食品加工の基礎知識・技術を習得する。 ③ 食品栄養や食品衛生など食についての基本的な考え方を身につける。				
単元と内容					
1 学期	製造の意義と動向 農産食品物の加工 小麦粉加工①・果実加工①乳製品の加工① (クッキー)(ブドウ・オウトウ)(プリン)		食品製造が食生活に果たす役割を学びます。		
			食品産業の特色と課題について学びます。		
			小麦粉の分類、用途を学びます。		
			ジャム・ジュースの特徴、製造方法について理解し製造します。		
2 学期	食品の変質と貯蔵 食品の包装と表示 農産物の加工 小麦粉加工②・果実加工②乳製品の加工② (パン) (ブドウ・リンゴ)(チーズ・バター)		食品が変質する原因を学びます。		
			食品の各種貯蔵法の原理と方法を学びます。		
			食品包装の目的や包装材料の特徴を学びます。		
			農産物の加工原理について学びます。		
			実習が多くなるので、座学で学んだことを実習に生かせるようにします。		
3 学期	農産物の加工 小麦粉加工③肉製品の加工③ (麺) (ソーセージ作り)		原料・太さによる麺の違いを学びます。		
			全国各地の麺の名称、特徴を学びます。		
			手打ちうどんの製造実習を学びます		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品製造に関する基礎的な知識・技術を身に着け、製造実習において適切に実施することができる。			
II	思考・判断・表現	食品に関する知識思考を深め、製造品目ごとの適切な作業方法などを的確に判断することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	食品製造について関心を持ち、衛生面に配慮しながら意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察 配布プリントの点検 製造物の観察 期末試験		提出物 授業時の発言 配布プリントの点検 期末試験		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	園芸福祉科	必選	選択
教科	農業	科目	野菜	単位	2 単位
使用教材	「野菜」(実教出版)				
学習目標	① 野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、野菜の特性や生産に適した環境を理解する。 ② 各種野菜の品質と生産性の向上について理解し、経営の改善を図る能力と態度を学ぶ。				
単元と内容					
1 学期	☆野菜栽培について 第1章 野菜生産の役割と動向 ○野菜苗の育苗と販売 1 野菜の種類と特徴 第2章 野菜の生育と栽培環境の調節技術 ○夏野菜の管理 1 野菜の生育と生理 ○夏野菜の収穫と調整		○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
			○野菜生産と育苗について理解する。		
			○野菜生産と育苗が、野菜の品質を左右することを説明できる。		
2 学期	2 野菜の栽培環境と生育調整 ○秋野菜の苗準備と管理作業 第4章 果実を利用する野菜の栽培 ○キュウリ、スイカ、ナス等 第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 ○キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー等の管理作業 ○秋野菜の収穫と調整 ○温室管理作業		○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
			○基本的な栽培の知識を理解し、その技術を習得できる。		
			○収穫・調製の仕方、販売方法などを作物ごとに説明することができる。		
3 学期	第6章 根を利用する野菜の栽培 ○ダイコン、ニンジン 1年間の野菜学習のまとめ		○基本的な知識・技術を理解できる。		
			○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	野菜の生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努め、経営についても体系的に理解する。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上を目指して取り組むことができる。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認(ノート) 定期考査 口頭試問による確認(実技試験)		定期考査 行動の記録 (改善点を見出す意見を評価)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	園芸福祉科	必選	選択
教科	農業	科目	草花	単位	3 単位
使用教材	草花(実教出版)				
学習目標	温室(土耕・馴化)と圃場(花壇等)を学習の場として、一貫した草花栽培の実践と経営技術について学ぶ。また、地域の立地条件に適合した草花栽培に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、積極的に新たな技術を創造する能力と態度を育てる。				
単元と内容					
1 学期	◎草花とプロジェクト学習 ◎草花園芸の特徴と栽培技術 (品種改良と繁殖、育苗) ◎切り花、花壇苗、鉢物の栽培管理 ◎栽培環境の調節		○苗管理が適切に、意欲的にできたか。		
			○草花栽培の繁殖と育苗の重要性について理解できたか。		
			○切り花、花壇苗、鉢物の生産と品質について説明できるか。		
			○草花生産と育苗の基本的な知識が身についたか。		
2 学期	◎草花の栽培と環境管理 ◎切り花、鉢物等の管理 ◎切り花、鉢物の商品化 ◎草花の栽培、温室施設、花壇等整備		○温室、花壇、圃場等の草花栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
			○栽培の基本的な知識・技術が理解できたか。		
			○栽培管理、収穫・調整の仕方、商品化等の説明できるか。		
3 学期	これからの草花園芸 ◎草花生産の経営的特徴 ◎施設管理・整備		○基本的な知識・技術を理解できたか。		
			○温室、花壇、圃場等の草花栽培の学習に意欲的に取り組んだか。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	草花園芸の経営について、体系的に理解する。 生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努める。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことで深めている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上へ取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認(ノート) 定期考査 口頭試問による確認(実技試験)		行動の記録 (改善点を見出す意見を評価)		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	園芸福祉科	必選	選択
教科	家庭	科目	フードデザイン	単位	3 単位
使用教材	実教出版 フードデザイン 実教出版 フード&クッキング				
学習目標	①栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連した技術を身につけるようにする。 ②食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 第6章 フードデザイン実習	様々な食品についてそれぞれの特徴を理解し、自分の食生活に生かすことができる。			
		調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理に生かすことができる。			
		生産者と消費者が直接繋がる流通経路や食料供給と消費について考えることができる。			
		特別用途食品と保健機能食品について理解する。			
		これまで身につけた知識を調理に生かし、手際よく作ることができる。			
2 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本 第6章 フードデザイン実習	食品の表示についての理解を深め、適切な選択をすることができる。			
		食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができる。			
		食品添加物の定義や種類について学び、自分の食生活に生かすことができる。			
		和食、洋食、中華それぞれの特徴を理解し、実習することができる。			
3 学期	第6章 フードデザイン実習 第7章 食育	これまで身につけた知識を調理に生かし、手際よく作ることができる。			
		子どもおよび高齢者のための料理について、調理上の配慮・調理法・調味について学び、それぞれの献立を考えて実習 することができる。			
		食育の意義と課題を学び、その大切さを理解する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	栄養、食品、献立、調理など、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。			
II	思考・判断・表現	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	ペーパーテスト 実技テスト 授業時プリント・実習ノート		ペーパーテスト 実習の様子 授業時プリント・実習ノート 献立作成		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	食料環境科	必選	選択
教科	農業	科目	食品製造	単位	3単位
使用教材	食品製造(実教出版)				
学習目標	① 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ② 食品製造に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 生産性・品質の向上が経営発展につながるよう学び、協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第7章 農産物の加工 1. 肉類の加工 2. 牛乳の加工 3. 鶏卵の加工 (実習)チーズ製造・バター製造・ ヨーグルト製造/乳酸飲料製造		・肉類の成分と加工特性を学ぶ。		
			・牛乳の成分と加工特性を学ぶ。		
			・乳製品の製造に必要な知識と技術を習得する。		
			・鶏卵の構造と加工特性を学ぶ。		
2 学期	第6章 農産物の加工 穀類、豆類、いも類、野菜類、果実類の加工 (実習)漬物・リンゴジュース・ジャム・豆腐の製造 第9章 食品製造の実践と企業経営		・各種農産物の特性と加工原理について学ぶ。		
			・製品を保管、輸送する際の仕組みを理解する。		
			・作業体型の改善方法の手法であるISOとHACCPについて学ぶ。		
3 学期	第5章 食品の包装と表示 1. 食品の包装 2. 加工食品の表示制度		・食品包装の目的を学び、微生物の働きについて理解する。		
			・食品包装の種類を知り、リサイクルについて深く考え、現状の		
			課題を見つける。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品製造に関する基礎的な知識・技術を身に付け、実験において適切に実施することができる。			
II	思考・判断・表現	食品製造に関する知識思考を深め、微生物ごとの特性や、実験ごとの適切な作業方法などを的確に判断することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	食品製造について関心を持ち、衛生・安全面に配慮しながら実験に意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察 ノート・配布プリントの点検 作業の観察		提出物 授業時の発言 ノート・配布プリントの点検 提出物		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料環境科	必選	選択
教科	農業	科目	食品微生物	単位	2 単位
使用教材	食品微生物(実教出版)				
学習目標	① 食品に関連する微生物の利用と培養に必要な基礎知識を身につける。 ② 農業の各分野で微生物を利用する能力と態度を育てる。 ③ 食品と微生物の関わりを実験・実習を通して学ぶ。				
単元と内容					
1 学期	Ⅰ. 人間生活と微生物 ◎農業鑑定競技『食品』分野の学習 Ⅱ. 微生物の種類と特徴 1. 微生物の種類 2. 微生物の生育環境		微生物とは何かを学ぶ。		
			農業鑑定競技に向け、専門知識を身につける。		
			微生物の特徴や分類、生態などを知る		
			微生物の基本的な取り扱い法を学ぶ。		
			微生物を利用した食品の加工方法について学ぶ。		
2 学期	3. 微生物の遺伝 Ⅲ. 微生物の代謝と酵素 1. 微生物の代謝とその利用 2. 微生物の酵素		遺伝情報の基礎知識を学ぶ。		
			微生物の代謝・発酵・酵素について学ぶ。		
			微生物の観察方法を身につける。		
3 学期	Ⅸ. 微生物利用の実践				
			座学で学んだことを実験で生かせるようにする。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品微生物に関する基礎的な知識・技術を身につけ、実験において適切に実施することができる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	食品微生物に関する知識思考を深め、微生物ごとの特性や、実験ごとの適切な作業方法などを的確に判断することができる。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	食品微生物について関心を持ち、衛生・安全面に配慮しながら実験に意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察 ノート・配布プリントの点検 作業の観察		提出物 授業時の発言 ノート・配布プリントの点検 提出物		授業時の観察 スケッチなどの確認
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	園芸福祉科	必選	選択
教科	福祉科	科目	介護福祉基礎	単位	2 単位
使用教材	介護福祉基礎 実教出版				
学習目標	① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得させる。 ② 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立やさまざまな社会的対応を理解させる。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点にもとづき、自己実現が達成されるよう基本的な福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。				
単元と内容					
1 学期	1. 介護の意義と役割 2. 介護福祉の担い手	・基本的人権の尊重の実現を目指した介護の意義や役割とQOLの向上について理解する。			
		・介護分野の自立の在り方と介護者としてのかかわり方を理解する。			
		・介護保険制の始まった社会背景と介護を支える専門職について理解する。			
		・介護にかかわる職種やチームケアの目的と意義について学ぶ。			
		・超高齢社会が抱える課題を理解し、支える地域やボランティアの役割を理解する。			
2 学期	3. 介護を必要とする人の理解と支援	・自立した暮らし方のためにバリアフリーやユニバーサルデザインを学ぶ。			
		・高齢者の生活と支援のありかたを学ぶ。			
		・障がい者の生活と支援のありかたを学ぶ。			
		・介護を必要とする人の支援の基本を理解し、基本的な支援ができる。			
		・介護サービスの利用の流れと各種サービスを理解する。			
3 学期	4. 介護における安全確保と危機管理	・安全で安心な暮らしを守るため、リスクが生じやすい場面や事故予防を学ぶ。			
		・自分らしい生活を実現するために、福祉用具を理解し、その影響を考える。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	介護に関する諸問題を発見し、介護者として倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	よりよい介護をめざして自ら学び、適切な介護の実践に主体的にかつ協働的に取り組む力を身に付けている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	小テスト 定期テスト 実技試験 学習プリント		定期テスト 学習プリント 事例検討 介護実習		予定
					70時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和6年(2024年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料環境科	必選	選択
教科	農業	科目	農業土木施工	単位	2 単位
使用教材	「農業土木施工」(文部科学省)				
学習目標	① 農業土木工事の諸工法について、基礎的な知識と技術を理解する。 ② 土工・基礎工などの理解のために、土の基本的な性質を理解する室内試験を行う。 ③ 工事の管理や法規を学ぶとともに、農業土木施工に係るいろいろな施工技術の方法を身に付ける。				
単元と内容					
1 学 期	第2節 土工 第1 土の基本的な性質 第2 土工計画の基本 含水比試験・粒度試験等		・ 土工の基礎データを取るための各種室内土質試験を行う。		
	第4節 基礎工 第1 基礎工の種類と特徴 第2 基礎地盤の支持力		・ 諸工事の進め方とそれにあつた工法について理解する。		
	第6節 水路工 第1 開水路工・管水路工		・ 基礎工・水路工を理解する。		
	定期テスト				
2 学 期	第5節 道路工 第1 アスファルト舗装 第2 コンクリート舗装		・ 農業土木施工における植栽工事の計画と施工、管理について理解できる。		
	第8節 植栽工 第1 植栽工事の計画・設計 第3 法面の植栽工		・ アスファルトやコンクリートの舗装について基礎的知識と計算、技術面の説明ができる。		
	第1節 ダム工 第4節 橋梁の施工		・ 各種工法について、理解できる。		
	定期テスト		・ 農業土木施工における工事の運営管理について、意欲的に取り組んでいる。		
3 学 期	第6章 農業土木施工の実践 第1節 農業土木施工の実践例		・ 農業土木施工における工事の実践を学び、運営管理の方法について理解できる。		
	定期テスト				
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	土木施工技術の基礎となる各種室内試験を体得するとともに、環境保全に配慮した工事について考える技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	SDGsの観点から私たちの周りにある環境問題や課題について学習し、問題解決策を考えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	土木工事の現状や今日的な課題などについて関心をもち、意欲的に取り組んでいる。			
評価 方法	観点 I		観点 II		年間時数
	学習状況の観察 記述の点検(ノート、実験 データシート等) 定期考査		学習状況の観察(発表等の パフォーマンスの評価) 記述の点検(ノート、実験 データシート等) 定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和6年(2024年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料環境科	必選	選択
教科	農業	科目	農業土木設計	単位	3 単位
使用教材	農業土木設計(実教出版)				
学習目標	①農業土木設計について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②農業土木設計に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業土木設計について農業土木事業が自然環境との調和へつながらよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章「農業土木設計」とプロジェクト学習 第2章 農業土木事業の計画と設計	・プロジェクト学習の進め方を理解し、授業に取り入れる。			
		・身近な農業土木事業について知る。			
		・農業土木事業の意義と役割を理解する。			
		・製図の実習			
2 学期	第3章水と土の性質 第4章構造物の設計 第5章農業土木構造物	・水の流れや土の構造、性質を知り、理解する。			
		・水利構造物や農業土木構造物の基礎の設計・施工・維持管理に必要な水と土について学ぶ。			
		・コンクリート構造、鉄筋コンクリート、鋼構造について学ぶ。			
		・製図の実習、校地内整備・維持管理の実習			
3 学期	第6章農業土木設計の実践	・製図の実習、校地内整備・維持管理の実習			
		・今後の農業土木施設の計画や設計のあり方を考える。			
		・農業土木による地域活性化と環境保全について考える。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業土木設計について体系的・系統的に理解し、関連する技術が身についている。			
II	思考・判断・表現	農業土木設計に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとする態度が見られる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業土木設計について農業土木事業が自然環境との調和へつながらよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が見られる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	行動の観察 定期テスト 製図(提出物)		行動の観察 定期テスト 製図(提出物)		予定
					105 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和6年(2024年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位	2 単位
使用教材	教育芸術社 Joy of Music				
学習目標	① 音楽の多様性を理解し、創意工夫を生かした表現を確立する。 ② 自己のイメージを持って表現し、他者に伝えることができるようにする。 ③ 主体的・協働的に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。				
単元と内容					
1 学期	歌唱(実技演奏テスト) 音楽理論(小テスト) ギターの基礎(実技演奏テスト)	校歌や教科書教材を通して、歌唱の基礎的な奏法を身につける。			
		音楽を構成する要素を理解する。			
		ギター奏法の基礎的な技術を身につける。			
2 学期	器楽演奏(発表) 合唱(発表) 鑑賞(小テスト)	ギターの発展奏法やピアノの基礎的な技術を身につける。			
		合唱活動を通して、主体性や協働性を身につける。			
		鑑賞活動を通して、クラシック音楽の魅力を味わう。			
3 学期	演奏研究(発表)	生徒自身で計画を立ててアンサンブル等を行い、演奏における客観			
		性と多様性について理解を深め、理解したことを生かして演奏をする。			
		他者の演奏について客観的な評価をすることができる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解している。			
II	思考・判断・表現	創意工夫を生かした音楽表現をするために、他者の意見も参考にしながら自らの考えを伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取り組み 実技演奏テスト 小テスト		授業の取り組み 実技演奏発表 小テスト		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		自己肯定感・自己理解・他者理解・協調性・知識技能・生きる力			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	英語	科目	論理・表現 I	単位	2 単位
使用教材	MY WAY Logic and Expression I (三省堂)				
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。				
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	L.5 Welcome to Our Town L.6 Traveling Abroad The Arts 期末テスト		道案内の会話、助動詞		
			地域の特徴やマスコットキャラクターについての発表、受動態		
			買い物の会話、不定詞①		
			旅行先から友だちへのメッセージ、不定詞②		
			行ってみたい場所について発表をしよう		
2 学 期	L.7 Sports 中間テスト L.8 Everyday Technology L.9 Take Care 期末テスト		スポーツの試合についての会話、動名詞		
			車いす競技を紹介する発表、分詞の後置修飾、分詞構文		
			紙の本と電子書籍のよさについての会話、比較①		
			科学技術製品を紹介する記事の原稿、比較②		
			病院での会話、関係代名詞①		
3 学 期	L.10 SDGs — Take Action! 学年末テスト		SDGsについての会話、関係副詞		
			SDGsについての発表原稿		
			仮定法		
			友だちに感謝のメッセージを贈ろう— Words of Thanks		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合 うことができる。			
III	主体的に学習に 取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組 むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。			
評 価 方 法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	語彙シート(学習前) 筆写シート(学習後) 定期テスト 実技テスト (音読・暗唱など)		定期テスト レポート パフォーマンステスト (発表)		授業の取り組み (ノート・プリント・ 発表練習・授業態度)
					予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	農業機械	単位	2 単位
使用教材	実教出版「農業機械」				
学習目標	①農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第3章 トラクタ 1 乗用トラクタ 構造と性能、作業安全、点検 実技1 各車両の点検整備、乗用トラクタの運転操作 実技2 その他作業機械の運転操作 【定期テスト】		・農業機械の特徴や役割の理解		
			・乗用トラクタや各種作業機械の構造と運転操作		
			・各車両、作業機械の点検整備		
2 学期	2 歩行用、乗用トラクタの運転操作(発展) 内燃機関や電動機の仕組みと調整 実技4 トラクタ、その他作業機械の運転操作 第4章 作業機 耕うん・整地・育成・管理機械 実技5 トラクタアタッチメントの種類と操作 【定期テスト】		・乗用トラクタの構造と運転操作(けん引等)の学習		
			・電動機の原理、構造の理解		
			・耕うん・整地・砕土・育成・移植・収穫機械		
			・各種アタッチメントの構造と操作		
			・各種農業機械の構造と取り扱い		
3 学期	第5章 農業機械と安全 1 農業機械の整備・安全に関する法規 農作業による事故の実態、安全な操作 実技6 各種作業機械の点検、整備 【定期テスト】		・農作業による事故の実態を理解する		
			・作業安全を理解する		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	各種農業機械の操作、点検等について理解しており、農業機械を用いた作業を安全に行うことができる。			
II	思考・判断・表現	各種農業機械を用いる際の危険や課題を発見し、効率的な農作業に寄与できるよう合理的かつ創造的に思考、判断し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	各作業、運転操作等を安全に行うことができるように主体的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実技テスト		授業時の発言、発表		授業時の態度、農業機械の操作
					予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	マーケティング	単位	2 単位
使用教材	マーケティング(実教)				
学習目標	マーケティングの全体像を理解し、日常生活の中でモノやサービスが売られる仕組みを考える。また、農業におけるマーケティングの意義や役割について考え、理解する。				
単元と内容					
1 学期	○製品計画 ○仕入計画と商品管理	1.消費者のニーズと製品づくりのための計画について知る。			
		2.製品計画の全体像を理解する。			
		3.仕入計画の意味を理解し、様々な仕入れ方法を知る。			
2 学期	○販売価格 ○販売経路	1. 価格決定の基本的なメカニズムを理解する。			
		2. 価格戦略、価格表示について考える。			
		3.販売経路の設定基準を理解する。			
3 学期	○販売促進 ○マーケティングの考え方を活かした農業	1.販売促進の重要性を理解する。			
		2. 広告の役割を理解する。			
		3. マーケティングの視点から農業を考える。			
		4. 売れる農産物や販売方法について			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	授業の内容やモノやサービスが売れる仕組みが理解できるか。			
II	思考・判断・表現	授業前に教科書、ノートの準備がされており、服装を正しく授業に臨んでいるか。また、ノートをきちんととり意欲的・積極的に取り組み姿勢が見られるか。			
III	主体的に学習に取り組む態度	ノートは毎時間の学習がきちんとまとめられているか。課題は内容を理解し、期限を守って提出することができるか。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・行動の観察 ・ノートの点検		・発表力の評価		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表						
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択	
教科	情報	科目	情報テクノロジー	単位	2 単位	
使用教材	「情報テクノロジー」(実教出版)「進研WINSTEP情報Ⅰ」(進研学参) 「コンピュータ入力問題集」(日本文教出版)					
学習目標	①情報テクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②情報テクノロジーの利用、開発及び管理などに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③情報テクノロジーの安全かつ効率的な利用、開発及び管理を目指して自ら学び、情報システムの構築、運用及び保守などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
単元と内容						
1 学 期	1章 ハードウェア(応用)		テキストの内容を理解する。			
	(1) コンピュータ		ワープロの作成ができる。			
	(2) 周辺装置					
	(3) 標準化団体					
2 学 期	2章 ソフトウェア(応用)		テキストの内容を理解する。			
	(1) オペレーションシステム		表計算の処理ができる。			
	(2) アプリケーションソフトウェア					
	(3) 情報コンテンツに関する技術					
3 学 期	3章 情報システム(応用)		テキストの内容を理解する。			
	(1) 情報システム		身近な問題に取り組む。			
	(2) ネットワーク					
	(3) データベース					
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技術	○情報テクノロジーについて体系的・系統的に理解している。 ○情報テクノロジーについて関連する技術を身に付けている。				
II	思考・判断・表現	○情報テクノロジーの利用、開発及び管理などに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。				
III	主体的に学習に取り組む態度	○情報テクノロジーの安全かつ効率的な利用、開発及び管理を目指して自ら学び、情報システムの構築、運用及び保守などに主体的かつ協働的に取り組んでいる。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	授業の取組(プリント) 実技試験・筆記試験		授業の取組(発表) 実技試験・筆記試験		授業の取組(発言・態度) 課題の取組(創意工夫)	予定
						70時間
						実施
育てる能力		忍耐力 主体性 他者理解 協調性 誠実 生きる力 知識技能 社会貢献				

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	地歴・公民	科目	政治・経済	単位	2 単位
使用教材	第一学習社 高等学校 政治経済				
学習目標	社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決に向けて 構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
単元と内容					
1 学期	現代日本の政治・経済 日本国憲法と現代政治のあり方 望ましい政治のあり方と主権者として 政治参加の在り方 市場経済の機能と限界	日常生活は政治によって様々な仕組みがつくられていることを理解する。			
		自分たちの国をどのようにしたいかという願いや理想が憲法であり			
		その中に人々の扱いかたである人権があることを理解する。			
		市場経済の仕組みについて理解する。			
2 学期	金融を通じた経済活動の活性化 現代日本の諸課題の探求 現代の国際政治・経済 国際法の果たす役割 国際依存関係が深まる国際経済の特質	現代の資本主義への発展と変容、家計や企業の働きと政府の役割			
		について理解する。			
		グローバル化する国際社会の特徴と国際機関の働きや国際協調に			
		よる経済発展について理解する。			
3 学期	国際社会の諸課題の研究	国際社会における資源やエネルギー、環境保全などの問題を中心			
		にして、物価と消費者保護、社会保障と社会福祉などの経済生活			
		に関する諸課題について考えていく。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題に向けて探求するための手掛かりとなる概念 や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切 かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。			
II	思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治経済に関す る概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとと もに、身につけた判断基準を根拠にし構想する力や、構想したことについて妥当性や効 果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して合意形成や社会参画に向かう 力を養う。			
III	主体的に学習に 取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養 うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民 として自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び 社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	ペーパーテスト 授業の振り返り		授業の取り組み 課題解決に向けた発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		自己肯定感 主体性 生命 他者理解 協調性 生きる力 知識技能 社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	選択	必選	選択
教科	数学	科目	数学A	単位	2 単位
使用教材	教科書: 高校数学A(実教出版) 副教材: スタディノート数学A(実教出版)、サブノート数学A(実教出版)				
学習目標	①図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学 期	1章 場合の数と確率				
	1節 場合の数		集合、場合の数、順列、組合せ		
	2節 確率 (期末テスト)		いろいろな確率、期待値		
	2章 図形の性質				
2 学 期	1節 三角形の性質		三角形の角、線分の比、五心		
	2節 円の性質 (中間テスト)		円周角、四角形、接線、方べきの定理		
	3節 作図		いろいろな作図		
	4節 空間図形 (期末テスト)		直線と平面、多面体		
	3章 数学と人間の活動				
3 学 期	1節 数と人間		数の歴史、2進数、整数の性質		
	2節 図形と人間		面積、高さ、図形パズル、座標		
	自主トレーニング (学年末テスト)				
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	○図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		予定
					70時間
					実施
育てる能力		忍耐力 主体性 他者理解 協調性 誠実 生きる力 知識技能 社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必修	選択
教科	農業	科目	水循環	単位	2 単位
使用教材	「水循環」(文部科学省)				
学習目標	① 水を有効かつ継続的に利用するための知識と技術を習得する。 ② 地球上の水循環と環境や生物の関わりを理解する。 ③ 人間活動が水循環の中で営まれることを理解する。 ④ SDGsの観点から農業の持続的な発展に活用する能力と態度を身に付ける。				
単元と内容					
1 学期	第2章 水と地球環境 第1節 地球史と水 第2節 水循環 第4節 水と生態系 第3章 水と生活環境 第1節 水と人間の歴史 第2節 資源としての水 【定期考査】		・水蒸気と原生大気の形成について理解する。 ・水の誕生について理解する。 ・現在の気候組成について理解する。 ・水循環と水文循環の違いについて理解する。 ・地球上の水の誕生から現在の水循環について理解し、水の重要性について考える。 ・生物の体内における水の役割について理解する。		
2 学期	第4章 水と農林業 第1節 水と農地の土壌 第2節 水と農業生物の栽培 第3節 水と森林と土壌 第5章 農業水利 第1節 利水と治水 第2節 かんがいと排水 第3節 水利施設 【定期考査】		・今後起こりうる水の諸問題について考え、自分たちに今できることが何かを考える。 ・土壌の特徴について理解する。 ・水と森林と土の基本的性質について理解する。 ・水の物理的性質や静水、水の流れなど基本的性質を理解する。 ・土の構造や土の種類について理解する。 ・土の透水性について理解する。 ・地層水について学習する。		
3 学期	第6章 水資源の保全と活用実践 第1節 水資源の保全と活用の取組事例 第2節 水資源の保全と活用の実践 【定期考査】		・水利用の水源について理解する。 ・生活用水と環境用水について理解する。 ・水質保全の必要性について理解する。 ・農業用水の多面的機能について理解する。 ・日本の農業水利システムについて理解する。		
評価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	水を有効かつ継続的に利用するために必要な水循環の基礎知識や授業の内容をよく理解している。			
II	思考・判断・表現	私たちの周りで起きている水循環の問題や課題について学習し、問題解決策を考えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	水利用の現状や今日的な課題などについて関心をもち、意欲的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数
	学習状況の観察 記述の点検(ノート、ワークシート等) 定期考査 小テスト		学習状況の観察(発表等のパフォーマンスの評価) 記述の点検(ノート、ワークシート等) 定期考査	学習状況の観察 記述の点検(ノート、ワークシート等) 定期考査	予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必修	選択
教科	農業	科目	農業簿記	単位	2 単位
使用教材	農業簿記検定教科書3級(大原出版)農業簿記検定問題集3級(大原出版)				
学習目標	① 複式簿記による農業の帳簿作成、記帳の知識を身に付ける ② 積極的に農業経営の改善をめざそうとする意欲と態度を身に付ける ③ 農業簿記の検定に挑戦するための知識を身に付ける				
単元と内容					
1 学期	第1章 農業簿記の概要 ・損益計算書と貸借対照表の作成 第2章 簿記一巡の手続き ・取引と仕訳、転記 ・仕訳帳と総勘定元帳の作成 ・主要簿と補助簿 ・試算表の作成 第3章 勘定科目 ・農業簿記の勘定科目		農業簿記の目的を理解する。		
			収益と費用を理解する。		
			資産、負債、純資産を理解する。		
			損益計算書と貸借対照表を作成できる。		
			取引を理解し、仕訳と転記ができる。		
			仕訳帳、総勘定元帳、試算表が作成できる。		
			農業簿記の勘定科目を理解する。		
2 学期	第4・5章 流動資産と流動負債 等 ・流動資産、流動負債、固定負債 ・資本金 第6章 固定資産 ・有形固定資産 ・減価償却 第7章 決算書 ・決算の流れ ・決算の手続き		流動資産、流動負債、固定負債、資本金を理解する。		
			固定資産について理解する。		
			決算の手続きができる。		
3 学期	・経営分析と診断				
			実際に経営の分析と診断ができ、改善しようとする姿勢を身に付ける。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	簿記の原理を理解し、取引や決算に関する知識と技術を身に付け、適正な取引の記録と財務諸表の作成ができる。			
II	思考・判断・表現	実務に即した例題を取り入れた学習や取引を通して、適正な記録の取り方について考察することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業簿記に関心と意欲を持ち、関連する技術を身に付けるようにする。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期テスト 小テスト		行動の観察 (発表等のパフォーマンスの 評価)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	単位	2 単位
使用教材	実教出版 ファッション造形基礎				
学習目標	・被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ・基本的技術をしっかりと身につけ、更にそれを応用して製作に取り組む。 ・衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 衣服の構成 第3章 製作(基礎縫い 手縫いの小物)	・衣服には平面構成衣服と立体構成衣服があることを理解し、既製衣服のサイズ表示も理解する。			
		・体形の特徴や動作によって適切な衣服を考えることができる。			
		・立体構成衣服と、人が着用することで初めて立体的になる平面構成衣服の特徴を理解する。			
		・基礎縫いを正しく習得し、それらを生かした小物を製作する。			
2 学期	第2章 衣服の素材 第3章 製作(日常着)	・糸や布の種類と特徴について学び、環境に配慮した新しい衣服素材や取り組みに関心を持つ。			
		・様々な衣服材料の性能を理解し、用途に合わせた衣服材料を適切に選択し、取り扱いできる力をつける。			
		・日常着にふさわしいデザインと衣服材料を選び、自分のサイズに合った作品を完成させる。			
3 学期	第3章 製作(自由作品)	・これまで身につけた知識と技術を生かし、自分の目的に合った作品作りができる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする。			
II	思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、その課題を合理的かつ創造的に解決する力を養う。			
III	主体的に学習に取り組む態度	衣生活の充実を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
評価方法	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数	
	ペーパーテスト 実技テスト 授業時プリント	ペーパーテスト 実習の様子 振り返りシート	振り返りシート 授業プリント・実習ノート 授業の取り組み(座学・実習)	予定	
				70 時間	
				実施	
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	国語	科目	論理国語	単位	2 単位
使用教材	新編 論理国語 (大修館)				
学習目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ② 論理的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	・知の登山、知の水路 ・「論理的な人」とはどういう人か ・突然変異と進化の関係 ・人工の自然—科学技術時代の今を生きるために		・「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。		
			・筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。		
			・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。		
			・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。		
2 学期	・「考える葦」であり続ける ・【例題】米の種類と食文化 ・対話の精神 ・量の時代から質の時代へ		・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。		
			・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。		
			・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。		
			・統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。		
3 学期	・紙の本はなくなる ・情報化と紙の本のゆくえ ・人類の進化から考える「心」の誕生		・情報化と紙の本のゆくえ		
			・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。		
			・問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えをもつ。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深めている。			
II	思考・判断・表現	「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。「書くこと」において、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	学ぶことについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。情報を的確に比較・整理しながら、筆者の考えを読み取ろうとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント		1. 定期テスト及び課題テスト ①各定期テスト(年4回) ②基礎学力テスト ③夏課題テスト 2. 発表 3. 授業時のプリント 4. レポートや作文の提出		1. 振り返りプリント
					2. 授業時のプリント
					3. 課題の提出
				70 時間	
				実施	
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	造園植栽	単位	2 単位
使用教材	「造園植栽」(文部科学省)				
学習目標	① 造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 目的・環境に応じた合理的な植栽となるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第1章 造園植栽の意義と役割 ・造園植栽の特色と役割 ・「造園植栽」とプロジェクト学習 第2章 造園植栽計画 ・植栽のデザインに向けて ・植栽の具体的デザイン	・造園の役割と意義について学ぶ。			
		・造園植栽の特色と現状の課題を学ぶ。			
		・造園植栽のプロジェクト学習の進め方を学ぶ。			
2 学期	第3章 造園植栽施工 ・造園植栽施工の組み立て ・草花類の植栽 第4章 造園植栽管理 ・植栽管理の基本 ・樹木の管理 第6章 造園植栽の実践活動 ・身近な造園空間の植栽管理	・造園植栽施工計画について学ぶ。			
		・草花植栽の基本と整備方法について学ぶ。			
		・樹木の適正な管理技術について学ぶ。			
		・校地内における樹木等の植栽管理法を学ぶ。			
3 学期	第5章 造園植物 ・造園植物の基本 ・造園植物の繁殖と育成	・造園植物の種類、名称を学ぶ。			
		・造園植物の繁殖方法について学ぶ。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	造園植栽について体系的・系統的に理解し、関連する技術が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	造園植栽を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実習 (道具の使い方、作業の仕上り)		定期テスト 提出物 実習(道具の使い方、作業の仕上り)		授業の取組 (態度、出席状況、協働性) 定期テストの復習
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	全学科	必選	選択
教科	農業	科目	生物活用	単位	2 単位
使用教材	生物活用(実教出版)				
学習目標	① 体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 課題を発見し、農業に携わるものとして合理的・創造的に解決する力を養う。 ③ 生物の特性を活用し、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	第3章 動物の飼育と活用 動物を扱う際の留意点 ウマの飼育と活用	人獣共通感染症・家畜伝染病予防法について理解する。			
		ウマの飼育と活用について学習する。			
		ウマ・ウサギの管理実習を行う。			
2 学 期	第3章 動物の飼育と活用 1 動物と人間生活 うさぎ 犬の飼育と管理	私たちの暮らしと動物の関わりについて学習する。			
		動物がもたらす効果や動物の活用について学習する。			
		ウサギの飼育について学習する。			
		犬の飼育管理について学習する。			
		ウマ・ウサギの管理実習を行う。			
3 学 期	第3章 動物の飼育と管理 犬の飼育と管理	犬の飼育管理について学習する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	ウマやウサギの活用に関する基礎的な知識を身に付け、それらの特性を活用した活動を理解する。また、基本的な技術を身につけその技術を適切に活用する。			
Ⅱ	思考・判断・表現	ウマやウサギの適切な飼育環境が維持できるよう考え、適切な判断を行い、実行する。またお互いにコミュニケーションをとる能力を身に付ける。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	興味・関心を持ち、意欲的に実習に取り組み、実践的な態度を身に付ける。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	プリント学習のまとめ 発問に対する発言や行動の観察 期末テスト		プリント学習のまとめ 実習での行動 期末テスト		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和7年(2025年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	系統	選択
教科	家庭科	科目	保育基礎	単位	2 単位
使用教材	保育基礎 実教出版				
学習目標	① 保育の意義や方法、発達や生活の特徴及び福祉と文化について、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 ② 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担うものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ こどもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	1. 子どもの保育 2. 子どもの発達	・保育の意義と重要性について人間形成とどのようにかわるかを理解する。			
		・家庭での保育や保育の場の特徴や役割を理解する。			
		・子供を取り巻く環境の変化や保育の課題から今後の保育環境を考える。			
		・子どもの発達の共通性と個別性を理解する。			
		・子どものからだと心の発達の特徴を理解するとともにかかわり方を学ぶ。			
2 学 期	3. 子どもの文化 4. 子どもの生活	・子どもの健やかな発達のために児童文化財の意義について理解する。			
		・子どもの発達と遊びの重要性を理解し、発達段階に応じた遊具を作ることができる。			
		・子どもと触れ合う機会や保育の様子を観察を通し、適切なかわり方を学ぶ。			
		・子どもが心身の健康を保つために保育の技術を身に付ける。			
		・適切な生活習慣とその援助について考える。			
		・子どもの健康管理や事故防止について実態や原因を理解できる。			
3 学 期	5. 子どもの福祉	・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解できる。			
		・子どもを地域や社会で支える子育て支援の場や制度を理解する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。			
II	思考・判断・表現	子どもの発達や保育にかかわる現状について理解を深めたうえで課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	小テスト 定期テスト 学習プリント レポート 製作物		定期テスト 学習プリント レポート グループワーク (事例検討・ロールプレイ)		振り返りシート 学習プリント 各種提出物
					予定
					70時間
					時間
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			